



ゆめ通信

2025.9.1. No.141

発行 日本養豚事業協同組合

〒104-0033 東京都中央区新川2-1-10
八重洲早川第2ビル6階

TEL.03-6262-8990 FAX.03-6262-8991

第25回通常総会開催

理事長 松村 昌雄

令和7年7月25日に第25回通常総会を大手町サンケイプラザ（東京）において開催し、164名が出席し、慎重審議の末議案事項すべて可決されました事を報告いたします。連日の猛暑にもかかわらず、大勢の方にご出席いただき、組合設立25年となる今回の総会が盛会となりましたことを感謝申し上げます。総会は稲吉克仁理事（㈲マルミファーム代表取締役）の司会のもと行われ、会場から議長に選出された鹿熊岳人氏（㈲稲波ファーム代表取締役）に議事進行いただきました。両名のご尽力にも改めて感謝申し上げます。

今回は役員改選期に当たり、第6期より理事を務めていただいた大分県の後藤祐三理事が退任され、同じく大分県の福田実氏が新任されました。私も含めその他の役員は全員留任となり引続き2年の任期を務めることとなりました。

24期末は421名であった組合員数は、新規加入者25名と多くのご入会をいただきましたが、13名が退会されたことにより（主に廃業が理由）、25期末は12名増の433名となりました。全国的に養豚農家の減少傾向が続いていますが、そのような状況下で組合員数を増加できたことは皆様のご協力の賜物だと感謝するばかりです。

共同購入販売事業等の事業収入は、総売上げ29億2200万円、前期比1億6400万円の売上げ増となり、前期繰り越しを含めて5100万円の利益が確保できたことから利用分量配当金を4000万円とする剰余金処分案を上程し、可決決定されました。今期純資産2億8400万円、流動資産合計7億7000万円となり、今後も安定した組合経営に努めてまいります。今期も「ゆめシリーズ」「メンデルデュロック精液」「Topigs Norsvin種豚」等の商品を中心に共同購入販売事業拡大に努めて参ります。

アメリカの関税政策による混乱により、我々養豚業界でも飼料運送における運賃上昇が問題になっております。特に飼料工場から遠隔地にある農場では、飼料代金の20%が運賃となっているところもあります。しかしながら過去3年の飼料高騰を鑑みると、ようやく飼料価格は落ち着いてきました。アメリカでは過去最高レベルのトウモロコシ作付面積となっておりますが、為替相場ではしばらく円高傾向は見込めず、現在の価格を中心に上下するものと思われるので、引き続き高止まりの飼料価格が続くことを覚悟せざるを得ません。また米不足による米価高騰により飼料米は作付け半減との報もあり今後の供給が厳しい状況となっております。

各自の生産性向上や生産コスト削減のための取組みが引き続き必要です。今期もその一助となるよう組合発足当初から発信してきた「良い豚」「良い餌」「良い管理」の三大要素を基本とした優れた経営体制を確立している組合員にその手腕を共有いただき、それぞれの経営がより高いレベルで前進するよう従来の常識にとらわれない意識改革によりコスト削減に取り組むお手伝いを致します。今期のセミナーは地域毎にテーマを変え、6か所で開催いたします。現場での技術向上、経営改善の参考にしていただきたいと準備しておりますのでぜひとも多くの組合員のご参加をお待ちしています。

総会終了後には講演会を開催し、岩田寛史氏（㈱アニマル・メディア社代表取締役）に「豚価予測に必要な基礎知識」という題名で、続いて柴田明夫氏（(株)資源・食糧問題研究所代表）には「我が国養豚を取り巻く国際環境」と題してご講演いただきました。新年度も役員、職員一同組合発展のために更なる精進を致します。

新役員決定のお知らせ

7月25日（金）の第25回通常総会にて新役員が選出され、理事1人が退任し、1名が新任されました。

◎退任された理事

後藤 祐三（大分・員外）

○新任された理事

福田 実（大分・有限会社福田農園）

第26期役員

代表理事	松村 昌雄	（埼玉・有）松村牧場
副理事長	栗木 鋭三	（愛知・株）ロッセ農場
副理事長	山本 孝徳	（愛知・有）アクティブピッグ
理事	浅野 政輝	（北海道・有）浅野農場
理事	稲吉 克仁	（愛知・有）マルミファーム
理事	金城 栄	（沖縄・株）農業生産法人おおいしばるファーム
理事	志澤 輝彦	（神奈川・有）ブライトピック
理事	菅谷 守	（千葉・有）菅谷ファーム
理事	竹延 哲治	（鳥取・ファロスファーム株）
理事	角田 栄作	（熊本・有）角田農場
理事	福田 実	（大分・有）福田農園
理事	水野慎太郎	（宮城・有）みずの
専務理事	矢原 芳博	（員外・事務局）
監事	越智 富義	（愛媛・有）カワタキ
監事	丹尾 久剛	（秋田・有）丹尾農場



退任の後藤理事（右）と新任の福田理事（左）



新役員一同

第25回通常総会レポート



5期目を信任された松村昌雄理事長



開会を宣言する山本副理事長



(株)アニマル・メディア社岩田氏、記念講演

記念講演1、「豚価予測に必要な基礎知識」

記念講演は1番目に岩田寛史氏（株）アニマル・メディア社代表取締役）に「豚価予測に必要な基礎知識～ポストTPP、輸入豚肉の影響をどう読み解くか～」と題してご講演いただきました。

近年の豚肉高原相場は、PEDの影響でと畜頭数が減少した2014年以降に始まり、現在もその水準が続いています。需給を左右する最大の要因は「と畜頭数」であり、価格形成の根幹にあります。2024年度は輸入豚肉量が過去最多の98万トン記録し、特にブラジル産が前年比236%増と急増。2026年にはTPPにより従価税が完全撤廃され、輸入豚は現地価格や円安の影響を受けつつも、依然として国産より安価に供給されており、輸入品との競争が激化する見通しです。一方、家計における豚肉の消費量、消費額は鶏肉や牛肉、魚介類を上回りますが、価格上昇による数量減や人口減少の加速も課題と指摘されています。国内生産の安定と需給情報の共有による価格形成の仕組み強化が、今後ますます重要となると締めくくられました。



(株)資源・食糧問題研究所柴田明夫氏、講演

記念講演2、「我が国養豚を取り巻く国際環境」

記念講演の2番目に柴田明夫氏（株）資源・食糧問題研究所代表）に「我が国養豚を取り巻く国際環境」と題して講演いただきました。

2025年現在、世界は「グレート・モデレーション（物価と金利の安定）」の時代を終え、「グレート・リブライジング（価格大調整）」という新たな局面に移行しております。背景には、地政学的緊張の高まり、貿易の分断、気候変動の激化、脱炭素の進展、そして世界的な過剰流動性の存在があり、食料や資源、人件費、サービスといったあらゆる分野においてコストが上昇しております。食料市場においては、価格の乱高下が常態化し、需要が生産を上回ることによって在庫率も漸減傾向にあります。特に中国は世界の穀物在庫の過半を保有し、今後も日本の買い負けのリスクが高まると見られます。

わが国においては、「安定した価格・品質・供給」というこれまでの3本柱が揺らぎつつあり、農業経営者にとっては、資材費や燃料費の高騰に対し農産物価格が下落する、「シェーレ現象」がおきており、農産物価格への適正な転嫁が喫緊の課題と指摘されています。また、農業基本法の改正では平時の国内生産強化ではなく、有事対応を優先する内容が強まり「担い手」「集落営農」といった守るべき考え方が見られなくなっております。世界の穀物市場はごく一部の多国籍企業や特定国の動向に左右されやすく、日本の供給体制の脆弱性が露呈しつつあります。

最後に今こそ、農業・農村の持つ多面的価値を見直し、「命を支える“食”」の根幹としての農の意義を再確認し、持続可能な体制の構築が求められていると発信いただきました。



今年も会場は大手町サンケイプラザで行われた

アメリカ海外研修報告

有限会社ブライトピック 志澤 茂樹

(この内容は7月25日通常総会時に発表された内容です)

本プログラムは、日本養豚事業協同組合の主催により、2025年6月に実施されたものであり、現地での学びを通じて「産業としての養豚」を改めて見つめ直す貴重な機会となりました。

開催の日程

研修の行程は以下の通りです。6月3日に羽田空港を出発し、アメリカ・アイオワ州デモイン空港に到着。その後、4日から5日は「WORLD PORK EXPO」に参加。6日から7日はイリノイ州クインシーにて「Carthage Veterinary Service」の施設視察を行い、7日夕方から8日にかけてはシカゴにてレクリエーションと延泊を過ごしました。最終的に、9日にシカゴ空港を出発し、10日に羽田へ帰国いたしました。

WORLD PORK EXPO参加

まず、「WORLD PORK EXPO (デモイン開催)」は、NPPC (全米豚肉生産者協議会) が1988年より主催する、世界最大規模の養豚関連展示会です。例年、

1万人以上にのぼる生産者や業界関係者が集い、今回は日本からEco-Pork社が出展されておりました。展示ブースでは最新のテクノロジーが紹介されており、たとえば母豚の死亡時に自動で運び出す「HERCULES」(現在豚事協共同購入品として輸入され、ブライトピックでも使用しています)という搬出機器や、パイプ内を通過する飼料の重量をリアルタイムで測定するセンサーシステム、トラックの位置や温度を遠隔管理する装置など、養豚の効率化と省力化を支える数々の装置に触れることができました。また、尾齧りを防止・治療する薬剤や、リサーチ農場向けに母豚の給餌を制御するデバイスなど、疾病対策や飼養管理の高度化に向けた取り組みも多く見受けられました。NPPCからは骨付きバックリブの提供もあり、米国における「食文化としての豚肉産業」の裾野の広さも印象的でした。



図① WORLD PORK EXPO会場の姿



図② 展示会で注目した素材 1



図③ 展示会で注目した素材 2

Carthage Veterinary Service管轄農場見学

次に視察した「Carthage Veterinary Service」は、元タイリノイ州カーセージにあった動物病院が発展し、現在では養豚専門のコンサルティングおよび診療を手がける、アメリカを代表する企業へと成長しております。彼らの管理する農場では、衛生管理の徹底ぶりが顕著であり、クリーンゾーンの明確な設定や、全床スノコ構造を用いた衛生的な肥育環境、オールアウト後の洗浄の徹底など、日本とは異なるスケール感と合理性を実感いたしました。

特筆すべき点として、糞尿処理を行わず、そのままピットに溜めたふん尿を年2回ほどくみ取ってそのままトモロコシの栽培の肥料源として循環活用している仕組みには、大きな驚きと学びがございました。養豚と農業の融合によるサステナブルな経営モデルは、日本においても今後重要な視点となり得る感じております。

現地での交流

最後に、視察後のシカゴでは市街地の見学や、ホワイトソックスの本拠地訪問、そしてCarthage Veterinary Service役員・クレイトン・ジョンソン先生ご自宅での交流などを通じ、文化的な側面からも米国の生活や価値観に触れることができました。このような貴重な研修の機会を設けてくださいました日本養豚事業協同組合の皆様、ご協力いただいた各企業の皆様に心より御礼申し上げます。この研修を通じて得た知見を、今後の日本養豚産業の発展に活かして参る所存です。来年も実り多き視察研修となりますことを心より願っております。

③ レクリエーション・おまけ



図④ レクリエーションの様子



図⑤ 今期の参加者（クレイトン・ジョンソン先生宅にて）



図⑥ ブライトピック志澤茂樹氏、総会での発表の姿

表1 26期アメリカ海外研修参加者名簿

所在地	組員名	参加者名
千葉県	有限会社柴畜産	木村 彰吾
岐阜県	株式会社ロッセ農場	森本 祐加
熊本県	熊本興畜株式会社	上本 大一郎
熊本県	有限会社角田農場	角田 誠
宮城県	有限会社みずの	佐藤 安弘
熊本県	セブンフーズ株式会社	前田 勇矢
広島県	ファロスファーム株式会社	吉岡 隆太
愛知県	有限会社マルミファーム	加藤 理暉
群馬県	株式会社林牧場	桜井 羽杏
神奈川県	有限会社ブライトピック	志澤 茂樹
熊本県	有限会社サイキ	前田 隆治
秋田県	有限会社細川農興	細川 拓也
事務局	日本養豚事業協同組合	加藤 大輝
引率	(株)スワイン・エクステンション & コンサルティング	大竹 聡



JASVベンチマーキング 2024年データの解析結果

明治大学 農学部 農学科 専任准教授
佐々木 羊介

はじめに

ベンチマーキングは、経営改善のための強力な手法です。自社の現状を客観的な比較対象と照らし合わせることで、自社の立ち位置を明確に把握できます。近年、養豚産業を取り巻く環境は大きく変化しています。ウクライナ情勢や急速な円安の影響により、飼料の主原料である穀物価格や化学肥料の価格が軒並み高騰しています。さらに、国内での豚熱や海外でのアフリカ豚熱の発生を受け、飼養衛生管理基準の遵守や野生動物対策が喫緊の課題となっています。防疫体制の見直しと強化は、もはや不可欠と言えるでしょう。このような厳しい状況下で養豚事業を継続していくには、生産効率の改善とコスト削減が極めて重要です。そのためには、自社農場の弱点や課題を客観的に評価し、具体的な改善策を導き出す必要があります。ベンチマーキングは、そのための有効なツールとなります。

本稿では、ベンチマーキングデータを用いた解析結果として、(一社)日本養豚開業獣医師協会(JASV)が生産者とともに実施しているJASVベンチマーキングの2024年データを用いた解析の結果について紹介します。

解析に用いたデータの概要

本調査では、JASVベンチマーキングのWEBシステムに提出されたデータを使用しました。JASVベンチマーキングでは、表1に記載された項目について、月ごとの数値を提出・入力します。経営形態やPRRSの有無など、月ごとの変動が少ない項目を除くと、毎月入力が必要な項目は約20項目です。提出されたこれらの項目を用いて、繁殖・肥育・経営に関する各種成績を計算しています。

本調査では、2024年にJASVベンチマーキングに参加し、データを提出した185農場を当初の分析対象としました。しかし、分析の精度を高めるため、異常値やデータ欠損がみられる農場とパークシャー種飼

表1 JASVベンチマーキングの入力項目

区分	項目
農場情報	飼養母頭数、飼養品種、経営形態、養豚場従事者数、PRRSの有無
繁殖情報	種付頭数、分娩腹数、総産子数、生存産子数、離乳子豚頭数、分娩クレート数、自家産の候補繰入頭数
肥育情報	出荷頭数、出荷枝肉重量、総枝肉販売金額、離乳後の肉豚在庫頭数、哺乳豚在庫頭数、離乳後事故頭数、肥育面積、子豚販売情報
費用情報	総飼料購入量、総飼料購入金額(全体)、ワクチン・抗菌剤費、出荷肉豚の運賃、と畜経費

育農場を除外しました。その結果、最終的には2024年の一年間における1 - 12月の全ての月のデータがある165農場の年間成績を分析に使用しました。本稿では、ベンチマーキングデータを用いた解析結果のうち、主要な結果のみ抜粋して紹介いたします。

全体の記述統計

記述統計とは、収集したデータの示す傾向や性質を把握する手法のことです。表2には2024年ベンチマーキングデータの記述統計として、上位10%および25%の値、中央値、下位25%および10%の値を示しました。上位10%とは、全体の中で、上から10%の数値であり、例えば150農場のデータであった場合、上から15番目の農場のデータとなります。ベンチマーキングに参加している農場は、各項目における自農場の立ち位置についてフィードバックを受けています。

経済指標の経時的変化に関して、図1と図2に、2012年から2024年における出荷肉豚1頭当たりおよび年間母豚当たりの販売額・飼料費・粗利益の推移を示しました。出荷肉豚1頭当たりの指標について、出荷肉豚1頭当たり販売額は年々上昇し、昨年に引き続き、今年も過去最高値を更新しました。これは後述する枝肉価格の上昇と枝肉重量の増加が要因と考えられます。出荷肉豚1頭当たり飼料費は、2021年以前と比べると高騰しているものの、昨年からはほぼ横ばいでした。そのため、出荷肉豚1頭当たり粗利益は昨年よりも14%(約2500円/肉豚)増加しました。年間母豚当たりの指標は基本的には出荷肉豚1頭当たりの指標と近似していますが、年間母豚当

表2 2024年ベンチマーキングデータの記述統計

項目	粗利益 (/母豚/年)	販売額 (/母豚/年)	飼料費 (/母豚/年)	粗利益 (/肉豚)	販売額 (/肉豚)	飼料費 (/肉豚)	常時 母豚数	出荷頭数 (/母豚/年)
上位 10%	¥782,162	¥1,403,425	¥438,351	¥26,703	¥47,574	¥19,849	1,801頭	29.7頭
上位 25%	¥678,405	¥1,267,660	¥527,753	¥23,334	¥46,166	¥21,746	1,080頭	27.5頭
中央 値	¥534,551	¥1,119,057	¥576,115	¥20,505	¥44,860	¥23,609	566頭	25.2頭
下位 25%	¥411,201	¥973,178	¥639,038	¥17,593	¥42,431	¥25,749	266頭	22.3頭
下位 10%	¥351,159	¥843,113	¥681,423	¥15,960	¥40,557	¥28,122	143頭	19.9頭

項目	増体重 (g/日)	枝肉重量 (/頭)	離乳後 事故率	離乳子豚数 (/母豚/年)	離乳子豚 数(/腹)	分娩回転 率(/年)	生存産子 数(/腹)	総産子 数(/腹)	分娩率	哺乳中 死亡率
上位 10%	735.5g	79.9kg	3.4%	31.4頭	13.1頭	2.48	15.1頭	17.1頭	92.9%	5.9%
上位 25%	698.0g	79.1kg	4.7%	29.6頭	12.4頭	2.42	14.1頭	16.2頭	90.1%	9.1%
中央 値	644.6g	77.3kg	7.3%	27.4頭	11.7頭	2.36	13.2頭	15.2頭	86.2%	11.7%
下位 25%	585.3g	75.2kg	10.2%	24.4頭	10.8頭	2.27	12.3頭	13.9頭	82.2%	14.3%
下位 10%	530.9g	72.9kg	14.2%	22.9頭	10.2頭	2.17	11.5頭	13.0頭	78.6%	17.1%

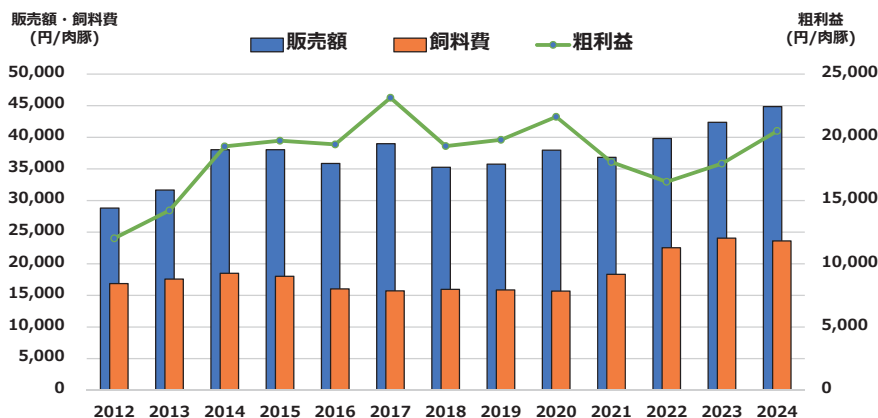


図1 出荷肉豚1頭当たり販売額・飼料費・粗利益の推移（値は各年の中央値）

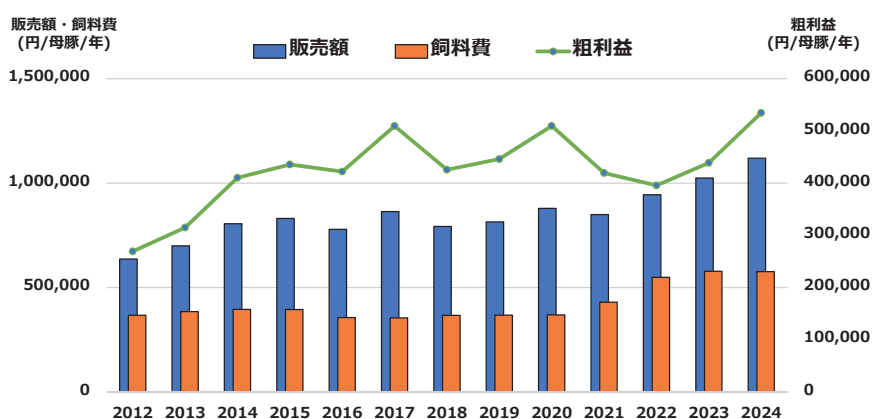


図2 年間母豚当たり販売額・飼料費・粗利益の推移（値は各年の中央値）

たりの指標は年間母豚当たり出荷頭数の影響を受けており、出荷肉豚1頭当たりの指標の傾向と完全には一致しません。年間母豚当たり販売額は昨年に引き続き、今年も過去最高値を更新し、約112万円/母豚/年でした。年間母豚当たり飼料費が昨年とほぼ同様であったことより、年間母豚当たり粗利益は前年よりも22%増加し、過去最高となる約53万5千円/母豚/年となりました。

出荷肉豚1頭当たり販売額および飼料費を構成する要因として、図3には枝肉重量・枝肉価格と飼料価格・農場枝肉FCRの推移を示しました。枝肉重量は2022年までは76kg前後を推移していましたが、豚枝肉取引規格の重量範囲引き上げにより、2023年では約1kg/頭増加しており、2024年も同様の数値となっています。また枝肉価格も昨年に引き続き堅調であり、前年よりも約25円/kg増加しています。これらの要因が、出荷肉豚1頭当たり販売額を押し上げて、結果的に年間母豚当たり販売額の増加にも繋がったと考えられます。一方、飼料価格は昨年と同様に高値傾向が続いているものの、数値はほぼ同値であり、ある程度の頭打ちがみえてきたのかもしれません。また農場枝肉FCRは毎年改善傾向にあり、飼料の利用効率は年々改良されていることが伺えます。

次に、年間母豚当たりの経済指標を構成する要因として、図4には年間母豚当たり出荷頭数・離乳子

豚数と分娩回転率・一腹当たり生存産子数の推移を示しました。年間母豚当たり出荷頭数・離乳子豚数ともに年々増加傾向にあり、これは多産系母豚の導入に伴う一腹当たり生存産子数の増加に起因していると考えられます。これらの成績の向上が、年間母豚当たり販売額および粗利益の過去最高値の更新に繋がっていると考えられます。一方、分娩回転率は年による変動はあまり見られておらず、分娩回転率を構成する因子である分娩率や非生産日数などにはあまり増減がないことが推察されます。

属性別の成績比較

各種成績の属性別比較として、飼養規模別およびPRRSの罹患状況別の比較を紹介いたします。

飼養規模別の比較において、図5には飼養規模（母豚数）別の年間母豚当たりおよび出荷肉豚1頭当たりの経済指標の比較を示しました。両指標において、飼養規模グループ間における経済指標の統計的な有意な差はみられませんでした。この点に関して、同一の飼養規模グループ内において、数値のバラツキが大きかったことが要因の一つとして考えられます。図6には飼養規模（母豚数）別の繁殖/肥育成績の比較を示しました。年間母豚当たり離乳子豚数や出荷頭数は飼養規模グループ間における有意な差がみられませんでした。一方、飼料価格は飼養規模と有意

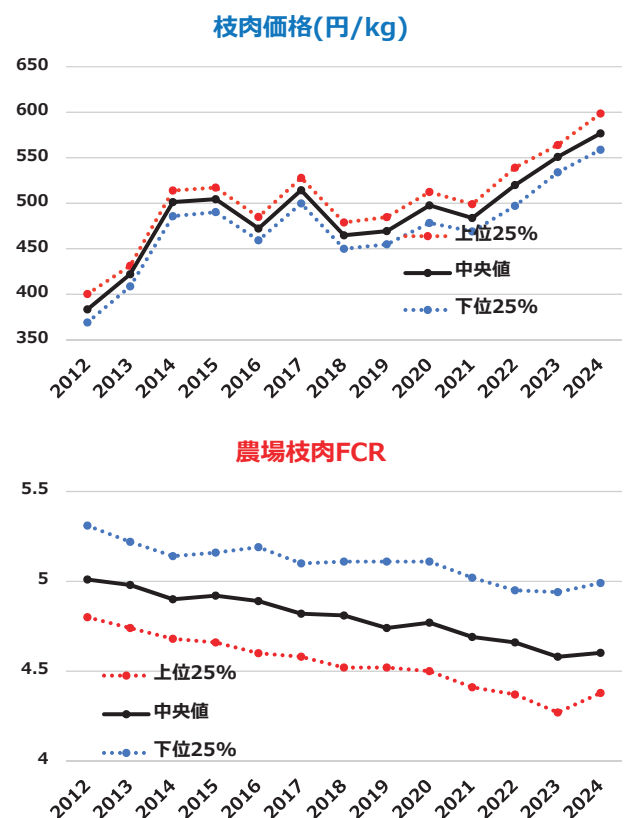
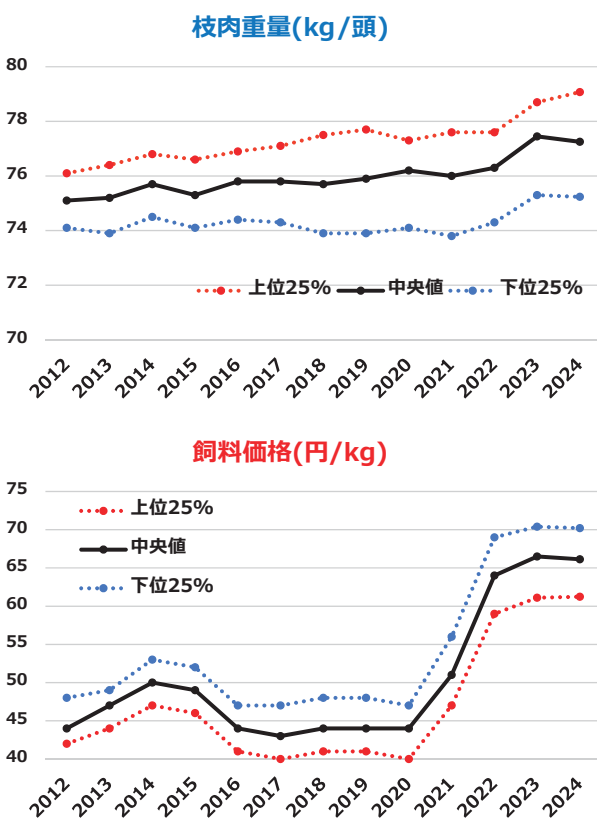


図3 枝肉重量・枝肉価格と飼料価格・農場枝肉FCRの推移（値は各年の中央値）

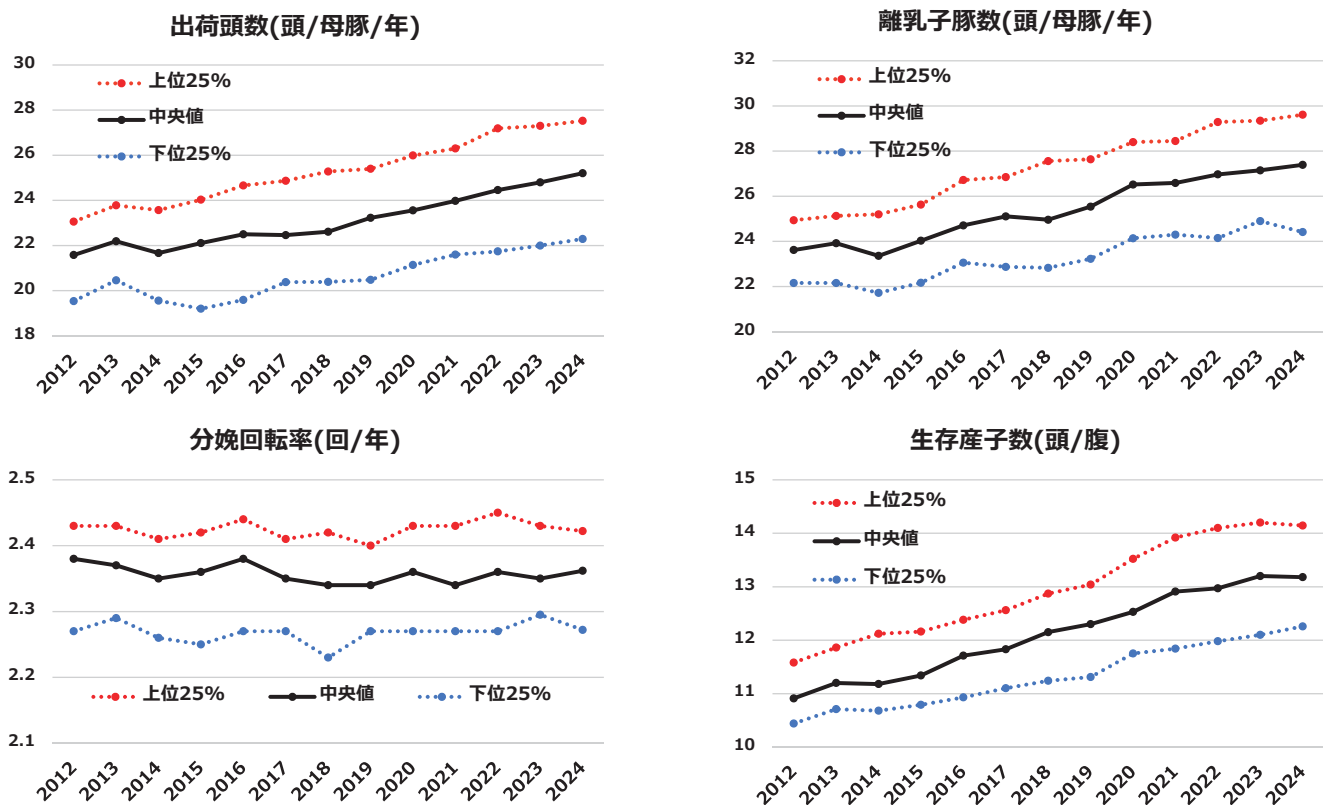


図4 年間母豚当たり出荷頭数・離乳子豚数と分娩回転率・一腹当たり生存産子数の推移（値は各年の中央値）

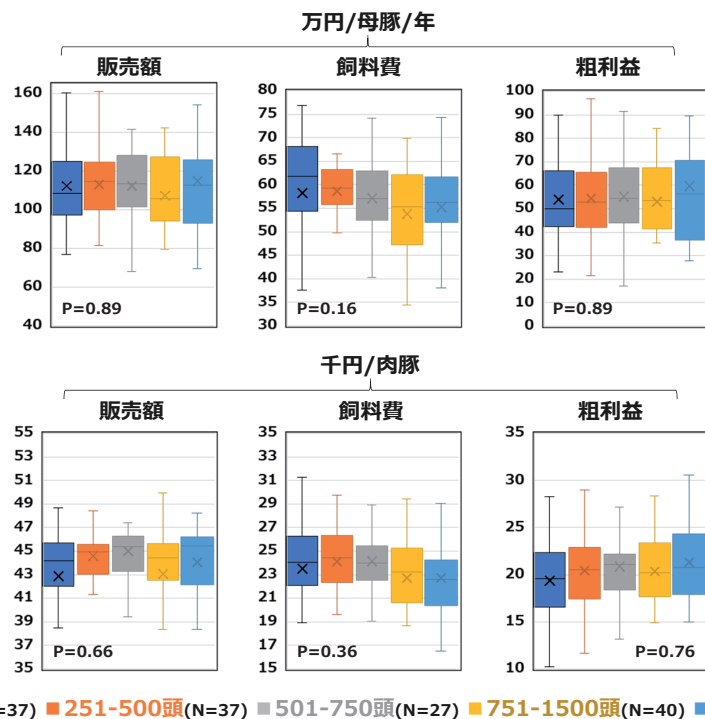


図5 飼養規模（母豚数）別の経済指標の比較

な関連の傾向がみられ、飼養規模が大きい農場において飼料価格が低い傾向でした。その一方で、飼養規模が501頭以上の農場では離乳後事故率が有意に高い結果となっており、飼養規模が大きい農場において疾病の発生が多かった傾向がみられました。

図7にはPRRS陽性（N=104農場）とPRRS陰性（N=55農場）別の成績比較を示しました。PRRSの罹患状況別の比較では、PRRS陰性の効果が如実に数値に反映されました。PRRS陰性農場では陽性農場よりも

年間母豚当たり粗利益・販売額が良好でした。また、離乳後事故率はPRRS陰性農場で約4.1%低く、年間母豚当たり出荷頭数が2.9頭、年間母豚当たり離乳子豚数が2.2頭多い結果となりました。加えて、農場枝肉FCRや出荷日齢もPRRS陰性農場で良好であり、特にワクチン・抗菌剤費は肉豚当たり約1000円も低くなるという結果となりました。これは農場の衛生状況を良好にすることが、農場の生産性向上に大きく貢献することを示唆しています。

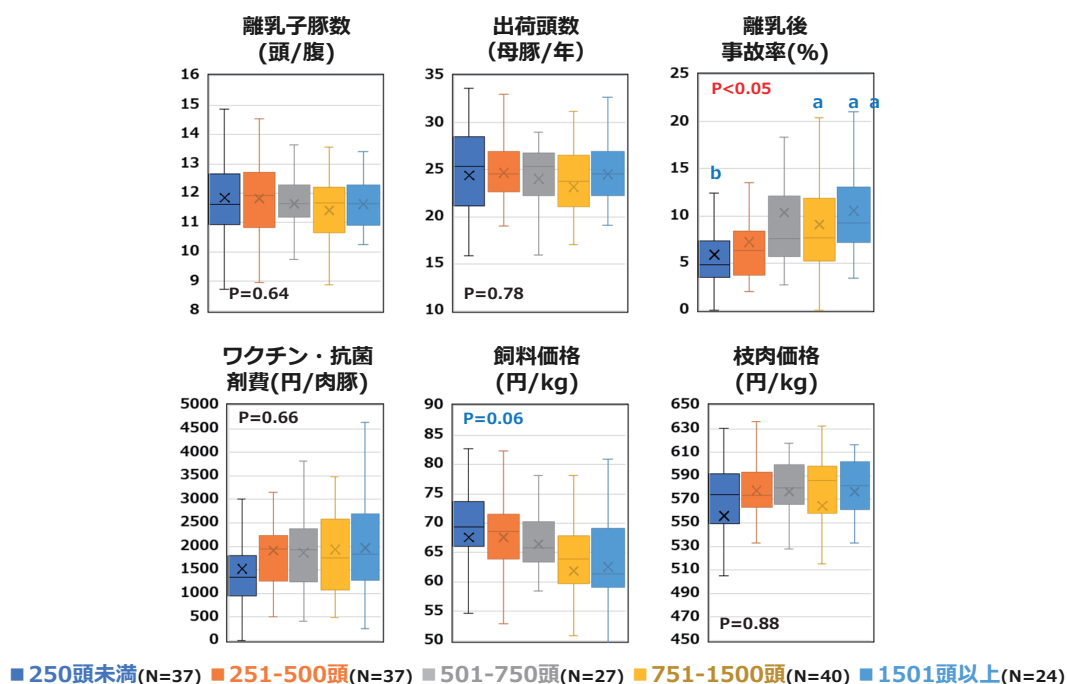


図6 飼養規模（母豚数）別の繁殖/肥育成績の比較

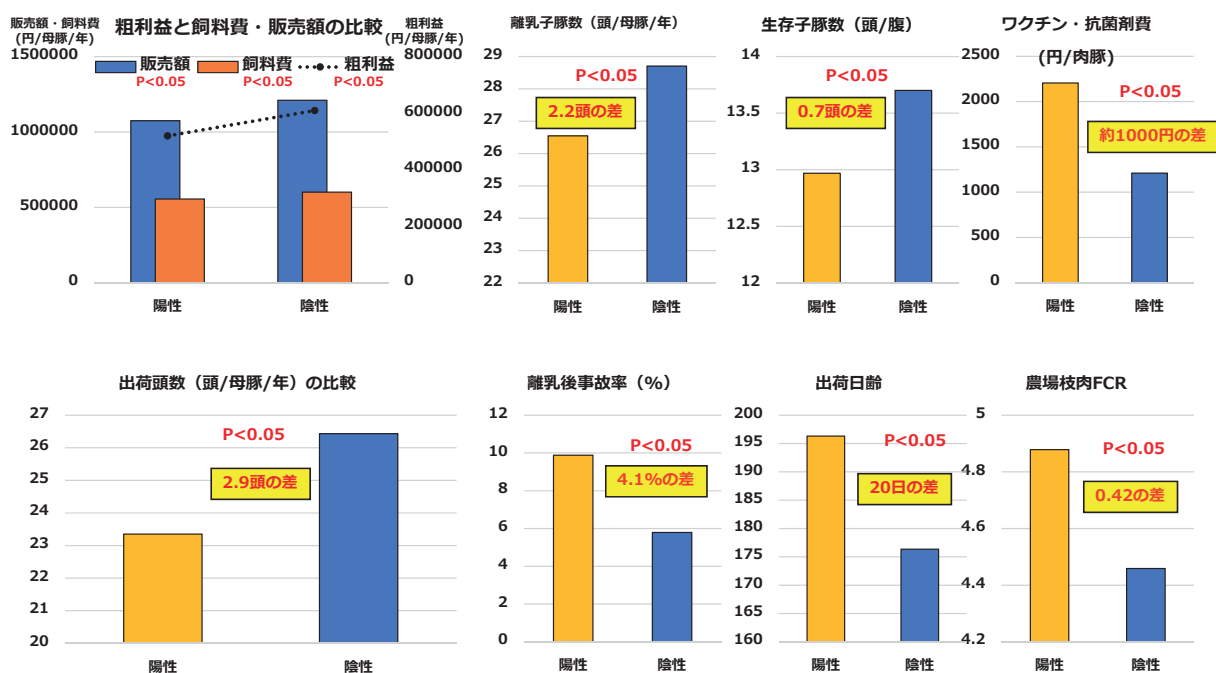


図7 PRRS陽性（N=104農場）とPRRS陰性（N=55農場）別の成績比較

成績上位/下位農場の成績比較

次に、成績上位・中位・下位農場の間における経済指標および繁殖/肥育成績の比較を図8、図9に示しました。農場の分類として、年間母豚当たり粗利益の項目を用いて、AIを用いた機械学習によって成績を上位・中位・下位に分類しました。年間母豚当たり粗利益を用いて分類しているため、上位農場はもちろん年間母豚当たり粗利益が高く、そして年間母豚当たり販売額が有意に高かったものの、年間母豚当たり飼料費は上位農場と中位農場の間で差がみられませんでした。これは、粗利益の差が飼料費よりも販売額に寄与していることを示唆しています。また出荷肉豚1頭当たりの経済指標では、下位農場において販売額および飼料費に大きなバラツキがみられます。このことより、成績が下位である農場の要因は販売額が低いケースと飼料費が高いケースの2つに分類できることが示唆されます。

繁殖/肥育成績では、成績上位・中位・下位農場で明確な差がみられている項目が一腹当たり生存産子数です。上位と下位農場の間では、平均値で差が2.1頭あり、この差が年間母豚当たり離乳子豚数や出荷頭数に繋がっていきます。単純に産子数の増加が粗利益の増加に必ず繋がるわけではありませんが、養

豚経営では豚を出荷することで初めて収入が得られるため、母豚の産子数は重要視すべきポイントだと考えられます。近年多産系母豚を導入する農場が増えてきていますが、自農場の成績に悩んでいる場合、今一度母豚の品種について検討しても良いかもしれません。また、一方で成績上位と中位農場の間では分娩回転率や離乳後事故率、出荷日齢に差がみられませんでした。このことより、成績上位と中位農場を分けているポイントは産子数であることが伺えます。

今後に向けた課題

JASVベンチマーキングでは月ごとの各種成績の数値を入力・提出いただいておりますが、入力精度のさらなる向上が望まれます。現状では、以下のような入力ミスが散見されます：出荷枝肉重量が生体重となっている、飼料購入量の単位がkgではなくtで入力されている、入力されている数値の桁が一つ足りない、など。これらの入力ミスを減らすためには、農場側のチェック体制強化だけでなく、管理獣医師による確認方法の見直しも検討すべき課題です。また、入力項目の拡充も重要な検討課題です。例えば、現行の入力項目では更新豚の導入頭数や母豚の廃用・死亡頭数が入力されないため、正確な母豚の更新率、

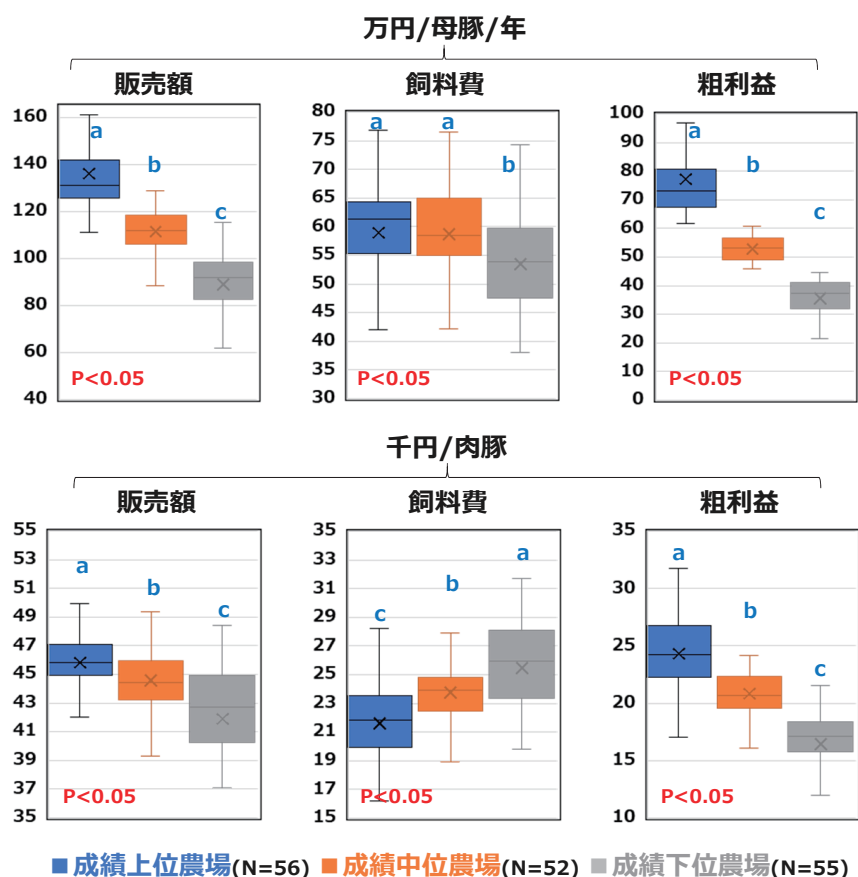


図8 成績上位・中位・下位別の経済指標の比較

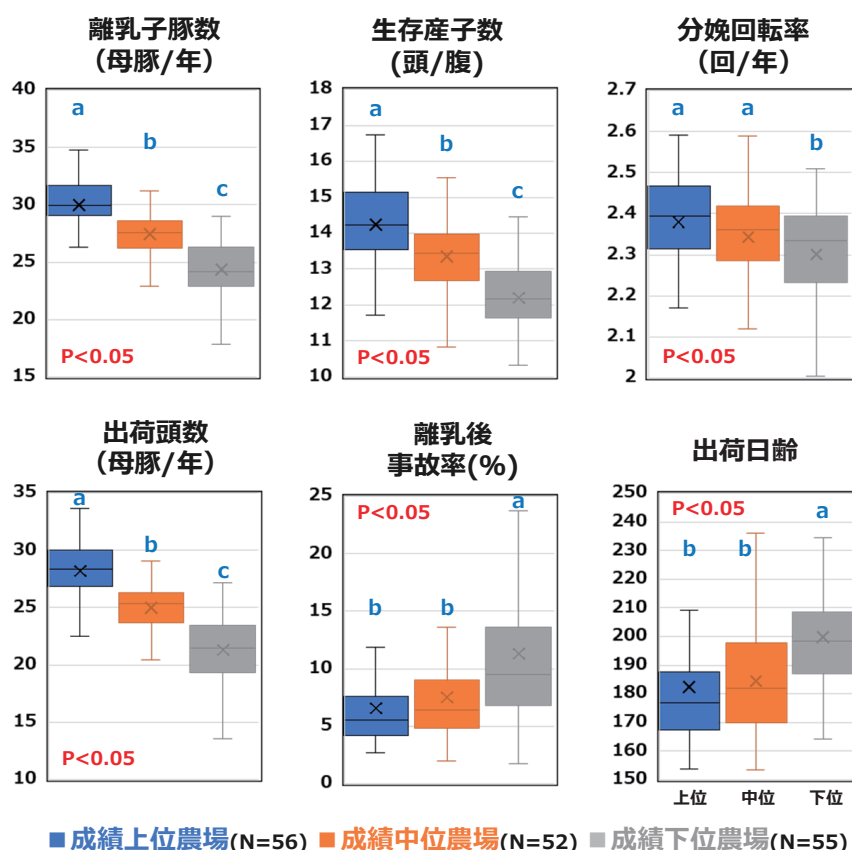


図9 成績上位・中位・下位別の繁殖/肥育成績の比較

廃用率、死亡率が算出できません。これ以外にも、養豚経営の実態をより正確に把握するため、必要な項目の洗い出しと追加を検討していく必要があります。さらに、近年増加しているツーサイトやマルチサイト農場など複数サイト農場への対応も課題です。途中で子豚を一部外部に出荷した場合における成績の補正方法についても、今後検討を進めていく予定です。

最後に

ベンチマーキングは、自農場の課題点を明確にし、全体の傾向を把握するなど、多くのメリットをもたらします。しかし、得られた結果を解釈する際には、注意が必要です。なぜなら、品種、飼養管理、使用飼料とその給餌プログラム、疾病の蔓延状況、農場の飼養密度といった「数値の裏に隠された情報」が、分析結果に大きな影響を与えることがあるからです。したがって、ベンチマーキングから得られた結果を判断する際には、これらの隠れた要因を十分に考慮する必要があります。自農場の成績を真に改善するためには、自農場の詳細なデータを用いた分析が不可欠です。

その上で、ベンチマーキングによって問題発生の原因が明らかになった場合は、その要因を制御できるかどうかを検討しなければなりません。もし制御

可能であれば、関係者全員で協議し、改善を試みるのが重要です。ただし、その際には制御にかかる費用や労力も考慮に入れる必要があります。一方で、制御が不可能な要因であれば、その事象の発生に備えた対策を事前に準備しておくことが求められます。このように、データ管理を通じて問題の早期発見と早期解決を図ることで、成績の改善が期待できます。

最後に、ベンチマーキングは全体の傾向を把握することを主な目的としているため、参加農場数が少ない場合、得られる知見や情報は限られてしまいます。そのため、ベンチマーキングを効果的に行う上で、参加農場数の向上が最も重要な課題となります。自農場の生産性や経営情報を公開することに抵抗を感じる方もいらっしゃるかもしれませんが、より多くの農場が参加できるような枠組みや体制を、関係者全体で協議していくことが重要です。JASVベンチマーキングにご興味のある方は、JASV事務局までお問い合わせください。

(一社) 日本養豚開業獣医師協会 (JASV) 事務局
 TEL 029 - 875 - 9090
 メール pig.jasv@r7.dion.ne.jp

日本養豚大学校運営委員長を終えて

日本養豚事業協同組合 前 理事長、(有)マルミファーム会長 稲吉 弘之

・楽しく思い出される44年間の業界活動

今年6月16日、(一社)日本養豚協会で日本養豚大学校の最後の運営委員会を終え、委員長を退任した。思い返せば1981年に41歳で全国養豚経営者会議役員に就任、以来85歳の今日まで44年間にわたる業界活動であった。この間、全国養豚経営者会議副会長、メキシコとのFTA対策協議会の共同代表、日本養豚生産者協議会(旧JPPA)副会長、(一社)日本養豚協会代表副会長、日本養豚事業協同組合理事長と、身に余る要職を歴任させていただいた。

業界が重要な問題を抱え、多忙な時は週2～3日を東京で過ごす等、中小の養豚経営者としては過酷な時もあったが、今となってはやり遂げた満足感等、楽しい思い出の方が多い。

“若者が元気な業界の将来は明るい”という信念のもと、私が長期間かかわった組織においては青年部を組織し、若者の育成に努めた。

・学ぶ環境を整え日本養豚大学校の開校

ある業界関係者の結婚披露宴に招かれたときに、たまたま同じテーブルで、麻布大学の伊藤省吾先生、宮崎県の日高良一氏、埼玉県松村昌雄氏らの面々と同席した。このメンバーだから当然、養豚談議で盛り上がった。そのなかで、業界を担う若者を育てることが重要であるとの共通認識ができ、「養豚大学校」をつくらうということで意見がまとまった。さっそくJPPAの志澤会長に相談したところ、当時、会長は健康がすぐれなかったこともあり、任せるから進めてくれとのことで、JPPAを事務局として設立準備委員会を立ち上げて、私が委員長を引き受け、開校準備に入った。

まず、豚事協の理事会で開校趣旨を説明し、当座の準備資金を支援して早期の開校にこぎつけたいと諮ったところ、全員の賛同を得て300万円の開校準備金を拠出することが認められた。次に飼料大手5社はじめ業界関係者にお願いし、合計1300万円の開校

準備資金を集めた。

ベースキャンパスは麻布大学のご厚意でお引き受け頂いた。解剖実習、妊娠鑑定等実技の研修も可能な素晴らしい環境が整った。

カリキュラムの制定、講師の選定・依頼等は設立の趣旨をよく理解し、その道のプロである(株)ビッグフォーラム22に担当していただくことになった。

開校後は設立準備委員会を運営委員会に切り替え、私が運営委員長として運営にあたることとなり、校長には志澤氏、副校長には日高氏に就任頂いた。

・開校以来12年で331名の修了生

日本養豚大学校はそこに学ぶ者が

- ① 「養豚産業」の日本の社会における存在意義と、責任を十分に理解すること。
 - ② 自らの仕事に誇りを持ち技術の研鑽を図り、各農場の成績向上に寄与できる人材に育つこと。
- を目的に設立した。

PEDの発生・豚熱の発生・コロナの脅威等々アクシデントに見舞われ、休校した年もあったが、事務局をはじめ関係者の努力でこの12年間に331名の修了生を送り出した。

・運営上の役割分担

志澤校長は主に麻布大学との折衝にあたっていた。日高副校長はこの12年間、全ての授業に参加し、夜はホテルで昼間の授業についてゆけない学生の補修授業、レポート提出に苦勞する学生のフォロー等々、人材育成に尽力していただいた。凡人ではなかなか真似の出来ない根気強さで真剣に取り組んでいただいたことは称賛に値する。

長期間にわたってこれだけの成果を上げたのは、麻布大学の全面的なご協力、日本養豚開業獣医師協会の獣医師をはじめとする講師の先生方の熱心な講義や実習によるところが大きい。そして準備からスクールの設営、受講生のサポートにあたってくれた

事務局のご苦勞に負うところも成功の大きな要因である。

・講師も評価される

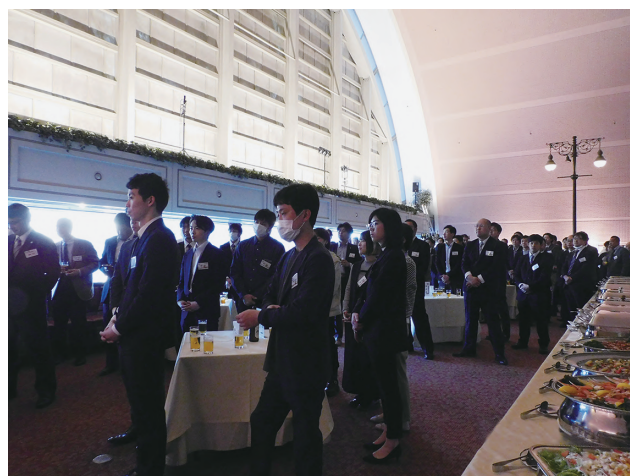
私も毎回講義をしてきたが、全学生から毎回、すべての講義・実習内容について感想文で評価される。これにより講師も緊張感が持て、真剣に講義内容の向上に努力する。中々考えた運営であったと思う。

・同窓会の開催

日本養豚大学校を受講した学生が、学んだ成果を日常の仕事にどのように生かしているか、雇用主がどう感じているか、2024年3月21日には卒業生など約100名が東京に集まり「養豚大学校シンポジウム2024」を開催した。8名が体験談と農場に帰ってからの取組を発表、2人の雇用主からは社員や後継者を受講させた立場からのスピーチをしてもらった。特別講師による講演もあって終日真剣な再教育の場となり、夜はOB・OG会として、会食をしながら旧交を温めた。

従業員同士、横のつながりをもつ機会はほかになく、同期の受講生同士で卒業後も連絡を取り合い情報交換、交友が続いているケースも少なくないようだ。全国的な仲間づくりにも貢献し、日々の仕事へのモチベーションを高められていることも、大学校の大事な役割となっている。この養豚大学校が今後とも末永く業界に貢献できるよう期待をしている。

(写真は日本養豚大学校シンポジウム2024の様子)



賛助会員のご紹介

島貿易株式会社

会社概要

創業／1904年

所在地／483-8107 東京都中央区銀座2-12-14

事業内容：島貿易(株)は創業120年を超える工業原材料の専門商社です。

事業推進部は飼料に添加し機能性を付与する事で生産性向上につながる機能性飼料を取り扱っております。

電話／03-3546-3129 (事業推進部)

E-mail／agri-lab@shima-tra.co.jp (事業推進部)



畜産向け主要取扱い製品：

① 商品名：Fibregum® feed (ファイバーガムフィード)

メーカー：Nexira SAS (本社：フランス)

推奨ステージ：離乳後期～肥育豚、母豚

アカシア属の木の樹液を原料とした水溶性食物繊維粉末です。

腸内細菌の餌として活用されるプレバイオティクスとして、腸内細菌を整え、短鎖脂肪酸が産生されます。

子豚の絨毛の伸長、子豚のリーキーガット症候群の改善、肥育豚の胃潰瘍予防、短鎖脂肪酸の産生など様々な試験の実施・データを取得し、実際の養豚場様でのフィールド試験で再現性が取れるよう試験をしております。



② 商品名：Biolex® MB40 (バイオレックスMB40)

メーカー：Leiber GmbH (本社：ドイツ)

推奨ステージ：離乳～肥育、母豚

ビール製造工程から派生しβ-グルカン、マンナンオリゴ糖などの機能性成分が含まれる酵母細胞壁です。

β-グルカンは主に免疫へ働きかけ、マンナンオリゴ糖は整腸作用へ働きかけます。

原料であるビール酵母細胞壁はカビ毒を吸着、また不溶性食物繊維としてのプレバイオティクス効果等の特長があります。

親水性がある為、人工乳～ペレット、マッシュなど様々な餌への添加が可能です。

Biolex MB40以外にも、訴求が異なるビール酵母由来の製品を複数取り扱っております。



昨年より賛助会員として加入いたしました。皆様にお役に立て頂ける情報発信を続けてまいります。

製品の詳細につきましては、営業担当者又は上記連絡先へご連絡ください。

どうぞよろしくお願いいたします。

株式会社サンクト

会社概要

代表取締役／代矢戸哲夫／今川信雄

所在地／135-0007 東京都江東区新大橋3-5-1 平野ビル2F

電話番号／03-5624-1688

事業内容：アミノ酸の輸出入及び国内販売

レアメタルの輸出入、国内販売及びリサイクル (金属スラッジの回収・焼成事業)

遺伝子 (cDNA クローン) の輸入及び国内販売

人材紹介コンサルティング

URL／http://www.sanct.co.jp

株式会社サンクトは「総合メーカー商社」として、グローバルなネットワークを活用し、アミノ酸・レアメタルをはじめとするさまざまな原料を日本、そして世界にお届けしています。

また、アミノ酸製造で世界大手の中国「SHINE STAR (新生源)」の日本総代理店として、日本の食産業をサポートしています。

新生源のアルギニンをはじめ、飼料添加物ではアミノ酸・ビタミン類・ミネラル類と10品目以上の取り扱いがあります。

在庫拠点は北海道から九州まで8拠点あり柔軟な対応が可能となります。

また、弊社には品質保証部があるため規格書の作成や品質評価対応など、原料調達から出荷までを管理し専門知識に基づく情報提供が可能となります。

飼料業界に参入して3年目になりますが、過去25年間の中国との貿易実績を活かし、飼料添加物の取扱量1万トンを目指し掲げ、産業界に貢献することを目指しています。

<取扱一覧>

L-アルギニン/L-トレオニン/塩酸L-リジン/L-バリン/L-トリプトファン/DL-アラニン

L-グルタミン酸ナトリウム/ビタミンE粉末/重曹/グリシン/リン酸カルシウム

塩化コリン (60%コーンコブ) /クエン酸無水/含水結晶ブドウ糖



賛助会員のご紹介

昭和産業株式会社 (Showa Sangyo Co., Ltd.)

会社概要

代表者／代表取締役社長執行役員 塚越英行
所在地／〒101-8521 東京都千代田区内神田2丁目2番1号（鎌倉河岸ビル）
TEL／03-3257-2941（フィード事業部）
URL／<https://www.showa-sangyo.co.jp/corporate/>

昭和産業グループは1936年創立以来、小麦・大豆・菜種・トウモロコシを原料に、小麦粉や植物油、糖化製品を加工・提供する「穀物のプロ集団」です。大豆ミールや菜種ミールを活用した飼料事業も展開し、複数の穀物を扱う強みと多様な素材の組み合わせで、食と飼料の課題解決に貢献。食品リサイクル率99.9%を達成するなど、穀物を無駄にせず、食卓と社会を支える存在として、安全・安心な供給を続けています。

母豚専用サプリメント『オリゴマーテル』

『オリゴマーテル』は、母豚専用の栄養補給型混合飼料です。イソマルトオリゴ糖により、健康な腸内環境を維持し、有機ミネラルやアミノ酸といった不足しがちな栄養素を補給します。さらに香料成分により、飼料摂取量の維持・増加が期待されます。当社農場における試験では、飼料摂取量の増加、哺乳子豚の事故率低減、増体重の向上などが確認されました。加えて、次の発情・受胎率も安定した水準を維持。オリゴマーテルの活用が、これからの繁殖管理における新たな選択肢となるでしょう。

製品情報詳細については、弊社営業もしくは上記連絡先までお問い合わせください。

その他、幅広い当社商品や情報を通じてお役に立てればと存じます。ぜひお気軽にご相談ください。



図：オリゴマーテル

日本ハムエンジニアリング株式会社

会社概要

所在地／〒141-6013 東京都品川区大崎二丁目1番1号
ThinkPark Tower
事業内容：畜産施設・食品工場倉庫の設計監理、排水処理施設の設計施工、建材・資材販売
電話／03-4555-8338
E-mail／NH-Engineering@nipponham.co.jp
URL／<https://www.nh-engineering.co.jp>



日本ハムグループの一社として40年に渡り、様々な施設の設計・監理などを手掛け、豊富な経験と実績を積み重ねてきました。主に畜舎、食肉加工工場、環境施設等、更にそれらに関連した機器・資材の販売を行っております。また、環境負荷の低減やCO₂排出量の削減にも積極的に取り組んでおります。地域社会や取引先との信頼構築を第一に考え、長年積み重ねてきた技術とノウハウで高いコストパフォーマンスを実現いたします。

【想いを形にする養豚設計】

養豚施設の設計においては、衛生管理や豚のストレス軽減、またAIを使ったスマート養豚(PIGLABO[®])などのご提案を行っております。用地選定・各種調査から竣工、引き渡しまで一貫してサポートいたします。また、建材メーカーとのタイアップによるコスト低減や温度管理設備の導入実績があり、多数の養豚農家様において生産効率向上と安全運営をサポートしてまいりました。

【環境に優しい水処理と施設づくり】

排水処理・環境施設の設計施工においては、地域環境への配慮を徹底し、安全性を保証する最新テクノロジーを活用しています。お客様の多彩なニーズにお応えするため、あらゆる局面でのトータルサポートをお約束いたします。

どうぞお気軽にご相談ください。



「矢原の部屋」 Vol. 12

専務理事 矢原 芳博

みなさんこんにちは、皆様のお悩み相談窓口「矢原の部屋」です。今回のゆめ通信でご紹介していますように7月25日に大手町のサンケイプラザにて豚事協の第25回通常総会が開催されました。多くの皆様にご参加いただき、無事、すべての議案にご承認をいただく事ができました。たいへんありがとうございました。

猛暑と養豚について

もう口にするのも嫌になるくらい暑い夏が続いています。私の予想では、このゆめ通信が皆様のお手元に届く9月中旬には、さすがにだいぶ緩和されているものと思われます（ぜひそう願いたい！）が、毎年のように襲ってくるこの猛暑によって、肥育豚の飼料摂取量の低下だけでなく、繁殖豚の受胎率低下による翌年の出荷豚の減少の影響も年々大きくなっており、東京食肉市場豚上物相場は今年7月の月間加重平均で、866円/kg（税込み）となり、高豚価で驚いた昨年7月（831円/kg）を35円も上回る結果となりました。さすがに買参人さんたちの運転資金にも限界があると思われ、900円相場は7月末には息切れを起こし、700円台となりましたが、それでも高水準である事には変わりありません。高豚価＝出荷豚が少ない、という図式に反して、猛暑の真っ最中でもコンスタントに出荷できる農場の皆様は利益を享受されているものと拝察します。

ここ数年の猛暑については、地球温暖化の影響であることは間違いなく（トランプ大統領は違うと言っていますが…）、来年も、再来年も、しばらくは継続すると考えておいた方がよさそうです。そうであれば、暑さ対策について、何らかの抜本的な対策を、ある程度のお金をかけてでも取り組むべきなのではないでしょうか。具体的な方法としては、

① 豚に直接風を当てて冷やす。

設備投資費はある程度かかりますが、一番手っ取り早く、効果も現れやすい方法です。送風ファンを増やす、送風ファンの能力を上げる、クーリングパッド、エコクーラー、ミストファンなど気化熱を利用して送る風の温度を下げる、など。また、送る風の方向を曲

げると曲げた分だけ風速が下がるので豚を冷やす効果が下がります。ある農場では壁に穴をあけて、送る風を直線的に流す工夫をしたら、肉豚が立ち上がって餌を食べ始めた、という経験をしています。

② 暑さに対する抵抗性をつける

暑さで弱っている豚に対して給与することで豚の抵抗性を上げるような製品もいくつか発売されています。有機酸であったり、生菌剤であったり、ハーブであったり、強肝剤であったり、色々な製品が発売されていますが、その効果については、農場ごとで様々ですので、これらについては各農場においてその効果を確認する必要が有ります。あそこの農場で効いたそうだからうちでも効くはずだ、とは決めつけられない側面があります。

③ 食べられなかった栄養分を補う。

特に種豚に関しては、食下量が減少した影響は、受胎率や産子数、授乳中の哺乳豚の成長に悪影響を及ぼしますので、それを補助的に補う栄養補給が必要です。特に最近の多産系種豚は繁殖能力は高い分、身体に蓄積できる栄養分のキャパシティが小さいため、ちょっと食べられなくなると成績にすぐに影響が出る可能性があります。特にエネルギーとタンパク質（さらに言えばリジン）を補給するような飼料を、本来食べさせたかった餌の量と実際に食べた餌の量の差に応じて、食べさせることが必要になってきます。この対策は、その時点の繁殖成績だけでなく、その次の繁殖サイクルにおける成績にも直結します。豚事協から発売している「ゆめアミノ」は、リジン等のアミノ酸の補給のために開発されたプレミックスですので、ぜひともご利用ください。

まとめ

今回は暑さ対策について考えてみました。ここ数年、暑さ対策は夏だけでなく通年で生産成績に影響を及ぼす事態になりつつあります。暑さ対策＝夏場対策から、暑さ対策＝通年で生産成績向上のキーポイントと考えを変えて挑まなければならない問題ですので、今後も矢原の部屋で取り上げていきたいと思います。

JASVベンチマーキング2024

参加農場165農場の2024年1月～12月間のベンチマーキング解析結果を元に、下記部門の上位三農場および各部門で成績が大きく改善された農場を部門ごとに「Jump Up賞」としてJASVが表彰し、豚事協から副賞として賞金を授与しました。全受賞者14農場のうち11農場が豚事協の組合員で、株式会社五十嵐ファームが「母豚1頭当たり粗利益部門最優秀賞」を授与されました。

各部門の最優秀賞受賞者は下記の通りです。おめでとうございます。

- ・母豚1頭当たり粗利益部門：株式会社五十嵐ファーム（山形県・組合員）・976,922円/母豚
- ・母豚1頭当たり出荷枝肉重量部門：有限会社ブライトピック本場（神奈川県・組合員）・2,673.9kg/母豚
- ・母豚1頭当たり離乳頭数部門：有限会社ブライトピック本場（神奈川県・組合員）・34.79頭/母豚
- ・農場枝肉FCR部門：有限会社飯田養豚場（青森県・組合員）・3.82（生体換算FCR2.48）
- ・離乳後事故率部門：有限会社高橋畜産（北海道）・1.72%

豚事協の第26期行事

理 事 会

第 1 2 6 回	令和 7 年 6 月13日 (木) (東京)
第127回、第128回	令和 7 年 7 月25日 (金) (東京)
第 1 2 9 回	令和 7 年 9 月13日 (木) (東京)
第 1 3 0 回	令和 7 年12月13日 (木) (東京)
第 1 3 1 回	令和 6 年 3 月13日 (木) (東京)

豚事協支部セミナー

北 海 道	令和 7 年10月17日 (札幌市・ホテルマイステイズプレミア札幌パーク)
中 四 国	令和 7 年11月21日 (愛媛県松山市・ホテルトップイン松山)
中 部	令和 7 年12月 5 日 (愛知県名古屋市・TKP名古屋新幹線口)
関 東	令和 8 年 1 月23日 (東京都・TKP日本橋)
九 州	令和 8 年 2 月13日 (宮崎県都城市・都城ロイヤルホテル)
沖 縄	令和 8 年 2 月27日 (沖縄県那覇市・ハタ荘)

※今期から支部の垣根をなくし、どの地区へもご参加いただけるようになります。
また東北地区は今期北海道地区と合同開催を検討しております。

女 性 部

女性部セミナー 令和 8 年 2 月 8 ・ 9 日

そ の 他

海 外 視 察 研 修	令和 7 年 6 月 3 日～10日 (アメリカ)
海 外 視 察 研 修	令和 8 年 1 月 予定 (オランダ)
第 4 回若者が夢を語る会	令和 7 年 6 月 26 日～27 日 (東京)

※青字は令和 7 年 9 月 1 日以降の行事となります。

編 集 後 記

＊ ＊ ＊

6月梅雨がまよなかつたため今年の夏は6～9月と4か月の酷暑…。これは夏バテを吹き飛ばすためにと思い、趣味のインドカレー作りがはかどっております。おすすめは「ポークヴィンダルー」というインド南西部ゴア地方の料理です。ポルトガル植民地時代の影響を受けインドでは珍しい豚肉カレー、ポルトガル料理の肉の酢煮込みから発展しています。

「ポークヴィンダルーレシピ」豚肉 400g（バラか肩ロース）に対して、ニンニク・ショウガ1片すりおろし、パウダースパイス 20～30g（パプリカ主体でコリアンダー・クミン・ターメリック・トウガラシ・黒コショウ他）、塩・砂糖小さじ1強、酢 40g（白ワインビネガーがおすすめ）、お好みでコナツミルクパウダー大さじ1（まろやかになります、ないとさっぱり感が強調される）をしっかりと混ぜて半日ほど肉に漬け込みます（丸2日漬けるととても柔らかくなります）。あとは簡単、漬け込んだ肉を大さじ2の油を引いた鍋で中火で軽く炒めて、表面の色が変わったら水 200mlを入れて玉ねぎ1個・トマト1個をくし切りしたものを入れて、沸騰後弱火で1時間煮込めば完成。水分は煮込みながら調整します。

お酢の力でお肉はトロトロ、スパイシーで甘酸っぱく夏場にぴったりです。ごはんでもパン・ナンでもOKですが、個人的にはインドのお米バスマティ一択です。インドの高級長粒種でふわっと軽やかな食感と味わいは胃にもたれずサラッとしたインドカレーに最適。ぜひお料理のお好きな方は作ってみてください。夏もあと少し、なんとか乗り切って心地のよい秋をむえましょう。（加）